



ゆうあい

校長ブログ→



学校教育目標：『在りたい自分を創る主人公』

2025(R7)年10月6日
豊岡市立豊岡小学校 学校だより
No10 児童数324名

自分から動き出す子どもたち～非認知能力の視点で見る運動会～

- ◆ 運動会では、子どもたち自身が動き出すシーンがたくさんありました。6年生は、準備係や演技係、放送係など、運営にかかわる仕事を分担していました。一応シミュレーションをしていたのですが、それ以上にてきばきと自ら気づき、活躍していました。児童会演技の玉入れも、実はほとんど練習していませんでした。そんな状態の中でも、児童会本部役員の子どもたちは進行や運営に一生懸命動いていました。得点を計算する時も、さっと集まり、子どもたちで計算して確認し、結果発表をしていました。今、自分ができることは何かを考え、リーダーになったりフォロワーになったりするしなやかさが発揮されていました。(主体性や協働性)
- ◆ いろいろなトラブルやハプニングもありました。徒競走のゴール前で、靴が脱げてしまったり転倒してしまったりするシーンもありました。どうするのかなと思って見ていると、立ち上がってゴールし、自分の順位の旗のもとに向かいました。周りの子の中には、「大丈夫!!」と励ます子、心配そうに顔を覗き込んでいる子、何やらひと言ふた言、ことばをかけている子……。そんな時でも、自分から動き出す子どもたちがいました。(コミュニケーション能力)



白組応援団「運動会の歌」



赤組「玉入れ」

- ◆ 運動会は、仲間と協働して勝利を目指し、一体感や達成感を味わえる行事です。しかし、当日までもいろいろな葛藤やドラマがあり、仲間とともに困難を乗り越え喜びを蓄えています。当日に至るまでのプロセスが、生きる力に働きます。
保護者の皆様には、そんなプロセスを大切に見取っていただき、励まし続けて下さったことに心から感謝申し上げます。今後も、できるようになっていくプロセス、うまくできなくてもそこに向かっているプロセスを大切に、一緒に子どもたちの成長に立ち会っていきましょう。温かいかわりをお願いします。

ソーシャルスキルトレーニング授業（6年生）

◆中学進学を半年後に控えた6年生に、スクールカウンセラーによるソーシャルスキルトレーニングの授業が行われました。

自分からSOSを出すきっかけを学ぶゲーム、パーソナルスペースのお話など動きのあるメニューを用意していただき、体感を大事にした授業でした。

「助けを求めることは恥ずかしいことではない。声に出して助けてと言おう。」

「助けてと声を出さずにいて、誰も助けてくれないと悲観するのは少し違う。」

「人との距離感は、一人一人違う。近すぎたらNOと言おう。」

などのお話に、子どもたちも頷いていました。

進学を前に不安になる子どもたちもいることから、スクールカウンセラーなど専門家の指導も受けながら、中学進学が楽しみになるように取組を続けていきます。



演劇ワークショップ～非認知能力を高めよう～

◆10月2日（木）～3日（金）に1・2年生を対象に、演劇ワークショップが行われました。プロのファシリテーター（演出家）をお招きして、子どもたちがお題をもとに、アイデアを出し、話し合い、折り合いをつけて、短いシーンを創作し表現します。2年生は、ブルドーザー・アイドル・プリン・ナマケモノなど5つの関係ないお題をくじで引き、それらが登場するストーリーを創って表現します。

◆子どもたちはくじを引いて大はしゃぎ！すぐにグループで集まり、どんな話にするか話し合いが始まります。しばらくすると動き出し、練習しながらどんどんストーリーが出来上がっていきます。そしていよいよみんなの前で発表。普段おとなしい子も笑顔で楽しんで表現している姿が印象的でした。自分から進んでする、仲間と話し合って協力して創る……。非認知能力がたっぷり発揮されていました。



「アイドルがやってきて……」「それいいね。」「だったら……」
どんどん話し合いが進んで創作に没頭しています。楽しそう！